

# 浜松医科大学

# 財務レポート2012

第8期事業年度(平成23年度)  
2011年4月1日~2012年3月31日



浜松医科大学は、

- 1) 優れた医療人を養成すること(教育)
  - 2) 独創的で世界の最先端研究の拠点になること(研究)
  - 3) 最善・最高の医療を提供し地域医療の中核的役割を果たすこと(診療)
  - 4) 産学官連携など、大学が持つ「知」を社会へ提供、還元すること(社会貢献)
- を使命とし、「教育」、「情報・広報」、「総務」、「研究推進」、「経営」、「病院運営」及び「調査・労務」の7つの企画室を設置し、4名の理事及び3名の副学長を中心に中期目標・中期計画に沿って事業の企画立案を行っています。

今後についても「多様な資金の確保」、「経費の効率的な使用・管理経費の抑制」、「有効な資源の配分」を推進し、教育、研究、診療及び社会貢献等の質の向上に取り組み、社会に期待される大学を目指していきます。

# ごあいさつ

浜松医科大学長  
中村 達



第Ⅱ期中期目標、中期計画期間の2年目です。平成23年度の決算が終わり、文部科学省へ財務諸表等を提出いたしました。そのサマリー的な財務レポートは、皆様に、今大学では何が行われ、どんな結果が出てきているかを透明性高く提示し、ご理解いただくことを目的としています。主なものを挙げると以下のとおりです。

教育に関する事業では、学習並びに学生の課外活動における環境改善を実施すると共に、図書館の古くなったジャーナル類の電子化を図り、参考書・教科書類を更新し、その結果発生したスペースの利用に大きく支出しました。これにより、約40年間変わらなかった図書館を一新することになります。

また、医学教育推進センターを設置し、医学教育専任の特任准教授を置き、臨床医学教育学寄附講座を開設しました。

研究に関する事業では、寄附講座を新規に設置したことのほか、若手研究者の研究に経済的支援を継続して行っています。平成23年4月には産学官共同研究センターを設置し、内視鏡手術用ナビゲーションシステムの製品化に成功しています。

診療に関する事業では、医師、看護師達の技術を磨くためにシミュレーションセンターを設置し、人材育成に活躍しています。

また、治験の連携体制「とおとうみ臨床試験ネットワーク」を確立し、メガホスピタルを構築して治験体制のモデルを目指しています。

さらに、地域周産期医療学講座を開設し、新生児医療専門医の養成に貢献しています。

なお、外来棟の改修は平成24年度にピークを迎え、平成25年7月に竣工の予定ですが、仮設外来棟で皆さんが不便であるにもかかわらず患者さんは増えています。

平成23年度も経営状態は問題なく発展したと見ています。

# 貸借対照表

要約

決算日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地、建物等の資産をもとに教育、研究、診療の業務活動を行っています。

(単位：百万円)

資産の部	23年度	22年度	増減(23-22)
土地	6,489	6,489	—
建物	21,191	20,342	848
構築物	286	292	▲5
工具器具備品	4,891	5,455	▲563
図書	674	999	▲324
その他有形固定資産	10	11	▲1
建設仮勘定	77	174	▲96
無形固定資産等	145	155	▲10
<b>固定資産 計</b>	<b>33,766</b>	<b>33,920</b>	<b>▲153</b>
現金及び預金	6,504	4,869	1,635
未収入金 ※1	2,850	2,576	273
有価証券 ※2	400	—	400
たな卸資産	174	209	▲34
その他	436	81	354
<b>流動資産 計</b>	<b>10,366</b>	<b>7,737</b>	<b>2,629</b>
<b>資産合計</b>	<b>44,133</b>	<b>41,657</b>	<b>2,476</b>

負債の部	23年度	22年度	増減(23-22)
資産見返負債 ※3	3,156	3,452	▲295
借入金	18,632	17,961	670
リース債務	827	939	▲112
運営費交付金債務	204	208	▲3
寄附金債務	1,738	1,590	147
前受受託研究費等	334	324	10
未払金 ※4	3,774	2,183	1,590
預り金・その他	643	419	224
<b>負債合計</b>	<b>29,312</b>	<b>27,079</b>	<b>2,232</b>
純資産の部	23年度	22年度	増減(23-22)
資本金	5,317	5,317	—
資本剰余金	5,053	4,728	325
利益剰余金	4,450	4,532	▲81
(うち当期末処分利益)	▲72	723	▲796
<b>純資産合計</b>	<b>14,821</b>	<b>14,578</b>	<b>243</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>44,133</b>	<b>41,657</b>	<b>2,476</b>

☆貸借対照表、損益計算書の端数処理については、百万円未満を切捨てています。合計についても円単位で計算したものを端数処理して、百万円未満を切捨てています。

## 【資産】

平成23年度末現在の資産合計は前年度比2,476百万円(6%)増の44,133百万円となっています。

主な増加要因としては、現金及び預金が借入金の増加等に伴い1,635百万円(34%)増の6,504百万円となったこと、建物が医学部附属病院外来棟改修工事の稼働部分、講義実習棟のトイレ改修及び照明設備改修工事等により848百万円(4%)増の21,191百万円となったことが挙げられます。

主な減少要因としては、工具器具備品が除却及び減価償却費の増加に伴い563百万円(10%)減の4,891百万円となったこと、図書が図書館環境・資料の整備に伴い除却を実施したことにより324百万円(32%)減の674百万円となったことが挙げられます。

## 【負債】

平成23年度末現在の負債合計は前年度比2,232百万円(8%)増の29,312百万円となっています。

主な要因としては、未払金が医学部附属病院外来棟改修工事の出来高払分の増加等に伴い1,590百万円(73%)増の3,774百万円となったこと、借入金670百万円(4%)増の18,632百万円となったことが挙げられます。

## 【純資産】

平成23年度末現在の純資産合計は前年度比243百万円(2%)増の14,821百万円となっています。

主な要因としては、資本剰余金にて会計基準等の改訂に伴い損益外減損損失累計額の全額713百万円を臨時損失へ計上することとなったため、325百万円(7%)増の5,053百万円となったこと、利益剰余金が当期末処理損失72百万円を計上したこと等により81百万円(2%)減の4,450百万円となったことが挙げられます。

(注) ※1 未収入金 主に未収附属病院収入が計上されています。うち2,610百万円が社会保険診療報酬支払基金、国民健康保険団体連合会への診療報酬請求等にあたり、5月末までには入金されるものです。

※2 有価証券 有価証券はすべて譲渡性預金です。資金管理委員会等の決定により短期(1年以内)の定期預金として複数の金融機関の利率を比較し運用しています。このうち譲渡性のものは、有価証券として区分することとなっています。

※3 資産見返負債 資産見返負債とは、運営費交付金、寄附金、補助金等を財源として取得した資産については、取得時に資産と同額の「資産見返負債(各々の財源の名称)」を負債に計上し、その資産の減価償却相当額と同額を取り崩し収益計上することで、収支均衡に作用する国立大学法人等の特有の勘定科目です。

※4 未払金 業者等への3月末時点での支払未了額で5月末までには全額支払されるものです。



# 損益計算書

要約

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにしています。

教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を示しています。

(単位：百万円)

費用の部	23年度	22年度	増減(23-22)
教育経費	311	298	12
研究経費	1,129	1,117	12
診療経費	10,920	9,562	1,358
教育研究支援経費	135	109	26
受託研究費	822	806	16
受託事業費	126	120	5
人件費	10,162	9,345	816
一般管理費	429	408	21
財務費用	333	358	▲25
<b>経常費用合計</b>	<b>24,370</b>	<b>22,126</b>	<b>2,244</b>
臨時損失			
固定資産除却損	343	3	340
減損損失	713	—	713
その他	26	16	10
<b>費用合計</b>	<b>25,454</b>	<b>22,147</b>	<b>3,307</b>
<b>当期総損失(利益)</b>	<b>▲72</b>	<b>723</b>	<b>▲796</b>

収益の部	23年度	22年度	増減(23-22)
運営費交付金収益	5,594	4,976	618
授業料等収益	698	670	28
附属病院収益	16,356	14,817	1,539
受託研究収益	803	850	▲46
受託事業収益	125	120	5
寄附金収益	409	363	45
間接経費収入	137	103	34
施設費収益	3	37	▲34
補助金収益	151	164	▲13
資産見返負債戻入	597	578	18
財務収益	1	2	▲1
その他の収入	157	176	▲18
<b>経常収益合計</b>	<b>25,036</b>	<b>22,861</b>	<b>2,175</b>
臨時利益	336	1	334
<b>収益合計</b>	<b>25,373</b>	<b>22,862</b>	<b>2,510</b>
目的積立金等取崩額	9	8	1



当期総損失の要因である減損会計について、最終頁の「会計基準等の主な改訂」にて解説しています。

## 【経常費用】

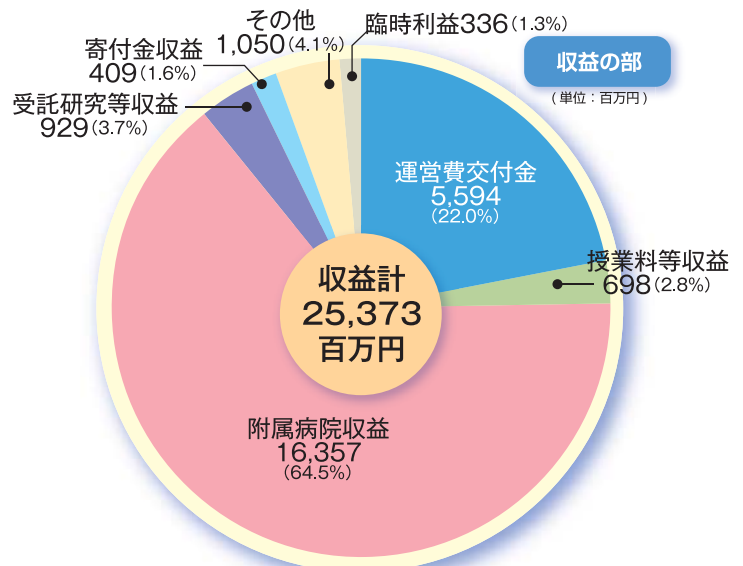
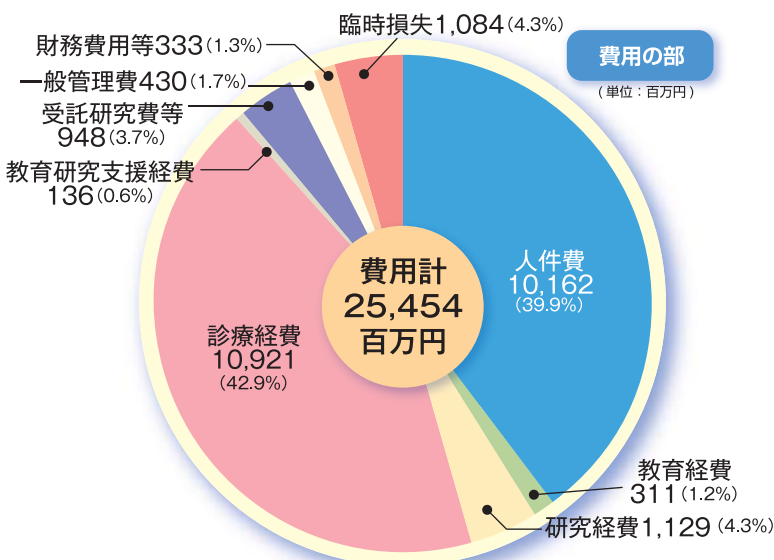
平成23年度の経常費用は前年度比2,244百万円(10%)増の24,370百万円となっています。

主な要因としては、診療経費が患者数及び手術件数の増加に伴う医薬品費及び診療材料の調達増により1,358百万円(14%)増の10,920百万円となったこと、人件費が特任教員の採用増、病院の看護師増員及びコメディカル職員等の待遇改善により816百万円(9%)増の10,162百万円となったことが挙げられます。

## 【経常収益】

平成23年度の経常収益は前年度比2,175百万円(10%)増の25,036百万円となっています。

主な要因としては、附属病院収益が患者数の増加及び手術料単価の向上等により1,539百万円(10%)増の16,356百万円となったこと、運営費交付金収益が特別経費の採択及び承継職員退職者の増加等により618百万円(12%)増の5,594百万円となったことが挙げられます。



# 平成23年度 主な事業

運営費交付金等による国の支援のほか、職員の努力により外部資金及び病院収入等が増加した中で、効率的な運用を図ることにより下記のような事業を実施することができました。

## 教育 に関する事業

- 1 学習環境の改善  
情報処理実習室改修、病理組織実習室実験台の増設、学生用ロッカーの更新、看護学科講義室改修、実習用シミュレータ、病理組織標本等DBなどを整備
- 2 図書館整備事業  
学生用医学・看護学図書資料の更新整備を実施  
バックジャーナルを電子化し集密書架を撤去
- 3 課外活動環境の充実  
プール更衣室、武道館、テニスコート等の改修
- 4 環境整備事業としての講義実習棟トイレの改修
- 5 助産師養成のためのネットワーク構築事業



1 病理組織標本等データベース



3 プール更衣室



2 寄附講座研究室（臨床医学教育学）



1 外来棟 3F



5 体外衝撃波結石破碎システム



6 シミュレーションセンター

## 研究 に関する事業

- 1 重点研究や若手研究者を支援するため、プロジェクト経費を配分
- 2 研究棟内の施設整備として狭隘化対策を含め寄附講座研究室等への改修
- 3 環境整備事業として空調設備の改修
- 4 知的財産活用の推進と共同利用施設の維持
- 5 子どものこころの発達研究センターによる教育研究事業
- 6 リンパ流の病態解析に基づいた新たな治療の開発と潜在的疾患の同定と予防のための研究事業
- 7 脳動脈瘤の発生・成長・破裂に関わる血流動態と血管機能の研究
- 8 地域産学官連携科学技術振興事業（イノベーションシステム整備）
- 9 研究開発施設共用等促進（橋渡し研究支援）

## 診療 に関する事業

- 1 病院再整備事業として外来棟改修が進捗、部分的に稼働を開始、仮設外来を設置
- 2 診療助教、病理部門、リハビリ部門等スタッフの常勤化と増員
- 3 看護師増員とともに夜間看護手当の充実、手術部業務手当の新設、キャリアアップ支援事業を実施
- 4 放射線技師及び検査技師等を増員し業務の充実を図る
- 5 高度な医療に対応するため、体外衝撃波結石破碎システム、内視鏡ファイバースコープ、ラジオ波焼灼装置、下肢静脈瘤レーザー治療装置、MRI装置を整備
- 6 補助金事業等として、  
感染症対策特別促進事業費（肝疾患相談・肝炎専門医療従事者研修事業）  
がん診療連携拠点病院機能強化事業  
治験拠点病院活性化事業  
静岡周産期医師長期支援プログラム  
大学病院業務改善推進事業  
3次医療圏再生推進事業  
高機能シミュレータ等によるプリセプタ育成事業 等



## 平成23年度国立大学法人会計基準等の主な改訂

### 【減損会計の改訂】

◎減損会計とは

資産の価値・使用実績の著しい低下が生じた場合、また資産を使用する見込みがない場合、資産の帳簿価額を下落させる手続き

◎本学では

平成21年度 医学部附属病院新病棟の竣工に伴い、旧病棟6～10階は使用しない(平成22年度以降取壊し)ことを決定したことにより減損額を計上

《損益外減損損失累計額 713百万円》

平成23年度 会計基準等の改訂

病院で発生した減損額について、「損益外」から「臨時損失(損益内)」に計上することへ変更

《臨時損失 713百万円》 → 当期総損失72百万円の要因

平成23年度の財務レポートをお送りいたします。

### あとかき



浜松医科大学理事  
(財務・病院担当)

瀧川 雅浩

大学及び病院の事業計画、経営状態を透明度の高い形で示しております。

平成23年は第Ⅱ期中期目標・計画の2年目ということで、第Ⅰ期に成し遂げた事業をさらに拡大・発展させるべく、様々な目標・計画を立て実施しております。特に、教育、研究、診療に加えて、社会貢献についても力を入れる所存です。

平成22年度同様、平成23年度も附属病院収益が大幅に伸びております。

その理由として、診療報酬改定による影響に加え、病院スタッフ、さらには大学スタッフの多方面からのご支援・ご協力の賜物と思っております。

附属病院では、今後も患者さんへの最良の医療の提供をモットーに、医療従事者が充足感を得られるような働きやすい職場を目指すべく、病院スタッフから様々なご意見をいただき、病院の硬軟両面で改善を図っていきたく思います。また、地域医療体制の拡充、医療福祉支援の充実、救急医療、周産母子センターの整備等も進めていきます。

平成24年度は外来棟改修がいよいよ本格化し、これに伴い多くの診療科では仮設外来での診療を余儀なくされております。患者さん、職員の皆さんには多方面でご迷惑をおかけいたしますが、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※本レポートに関連する資料は、浜松医科大学ホームページにて開示しています。

■中期目標・中期計画、年度計画 [http://www.hama-med.ac.jp/uni\\_introduction\\_chukimokuhyo.html](http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_chukimokuhyo.html)

■財務諸表、事業報告書等 [http://www.hama-med.ac.jp/uni\\_introduction\\_report\\_hjyouhou.html](http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_report_hjyouhou.html)



国立大学法人浜松医科大学

財務レポート2012

発行:国立大学法人浜松医科大学会計課

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号

TEL.053-435-2111(代)

<http://www.hama-med.ac.jp>